

写真俳句

## 四季の言葉、四季の彩

浦野裕司

四季折々、俳句に親しみつつ、身近な自然風景の写真撮影も楽しんできた。最近では俳句と写真の境界が曖昧になり、邪道ながら旅先で撮った写真を見て作句することもある。

今は亡き俳句の師匠は「カメラを携えていては、よい俳句は作れない」と話していた。俳句は言葉、カメラは画像による表現。脳の使い方はかなり異なるはずである。写真を撮りつつ俳句も作っているのは、二兎追うものは一兎をも得ずの結果になりかねない。

ある日、インターネットで「森村誠一の写真俳句館」なるサイトを見つけた (<https://shashin-haiku.net/>)。

タイトルに「写真で記録、俳句で記憶、写真俳句は日常から始まる」とある。それなら私にもできるかもしれないと期待がふくらんだ。

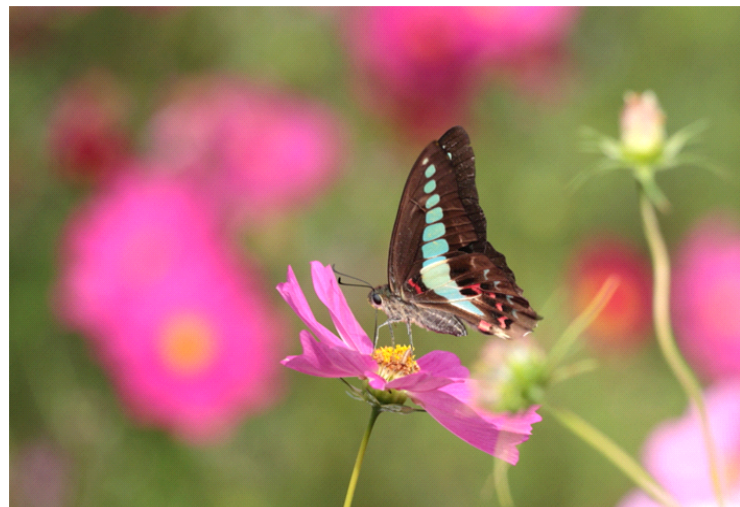
だが実際に写真俳句に取り組んでみると、これが一筋縄では行かない。俳句と写真が「つきすぎ」てしまい、つかず離れずの関係にならないのだ。それでも試行錯誤を重ねた末、なんとか六作品を仕上げた。写真俳句初心者の記す第一歩を、ご笑覧いただきたい。



寒暁の森眺めつつバスを待つ



戦場にいま届けたき春の色



お日様の  
遍く当たる  
秋日和



未だやらぬ  
ことの幾つや  
冬隣



梅雨晴間  
いつもは行かぬ  
道を行く



心地よき風  
小滝より流れ来る

〔撮影地〕 ＊掲載順

雑木の森（八王子市館町）

寒桜とメジロ（神代植物公園）

紫陽花（横浜三溪園）

滝の流れ（御岳山）

秋桜とアオスジアゲハ（昭和記念公園）

虫食いの桜葉（東京都庭園美術館）